

いきいきとした生活をするために
～安房の子ども達の自己肯定感を探る～

1. 設定理由

今、子ども達が抱える課題は不登校、引きこもり、いじめ、突然の暴力、規範意識の低下、低い耐性、乏しい表現力など様々である。更に、挨拶ができなかったり、他の子どもと上手にコミュニケーションをとることができなかったりと、心の中では一人一人が悩みなどを抱え込んでいるという状況も広がっている。そのような現象が表面化して、学校や家庭でいきいきとした生活を送ることができないことにつながり、学習や係活動、行事などに取り組む意欲にも悪影響を及ぼしている。

また、近年子ども達の自己についてのとらえ方に関する様々な調査結果が出されている。それらの結果で共通していることは、今の自分自身に不満を抱えているという子ども達の姿である。安房の教育現場でも子どもの会話の中に、「どうせできない」「自信がない」「自分のことが嫌い」といった感情が見えかくれするなど、自己肯定感の低い子ども達が増えている。これらのこともいきいきと生活できない一つの要因になっていることがうかがえる。

以上の点から、子ども達の自己肯定感を高めることは必要であり、子ども達を取り巻く人(保護者・教師・友だちなど)との関わり合いが大切だと考え、安房地域の子ども達の自己肯定感と子ども達のいきいきとした生活との関係を探り、学校と保護者への一つの方向性を示唆できればと考え、本主題を設定した。

2. 研究のねらい

安房の子ども達の「自己肯定感」と「学校や家庭内での行動・考え方」の関連性を調査することにより、今後の学校や家庭での教育のあり方について考察し、提言する。

3. 研究の内容

○調査対象 安房管内の小学校4年生、6年生と中学校2年生

○調査内容

- ①自分自身に関すること
- ②学校や家庭での過ごし方
- ③子ども達の教師や親との関わり方

4. 結論

今回の調査により、子ども達の自己肯定感と学校や家庭内での行動・考え方との関連がわかり、いきいきとした生活をするための一つの方向性を示唆することができた。

<提言>

- 人との関わりを大切に子どもに育てよう。(家庭)
- 子ども達の居場所を作ろう。(学校)